

【緑地を楽しむ本】



『ちよちよ もこもこ ぶわわわ』

ちいさなかぐのとも 2024年11月号

竹村東代子 さく

初冬の田んぼ。女の子  
が見つけたのは、「ぼう  
に ささった ソーセー  
ジ?」・・・実は「ガマ  
の穂」。

ちよちよさわると  
ふかふかのソーセージから、もこもこと何かがでてきて、ぶわわわと綿あめのように爆発！ガマの綿毛・タネです。付録の解説によると、穂の長さ10センチメートルあたりに約10万個も入っているとか。ただ、そんなに飛んでいっても、どこもかしこもガマだらけにならない、ということは、新しい水辺にたどりつくチャンスは決して多くない、ということ。なかなか生きていくのは難しいようです

私はまだ触ったことがないので、いつの日かチャンスがあれば爆発させてみたいです。（本の注意書きに「水辺や湿った地面に生える植物なので、近づくときは足もとの安全にお気をつけください。また種を飛ばすときは、周囲にご配慮ください。」とあります。）

この絵本では、風に乗って空いっぱい飛んでいく綿毛は、和紙を切り抜いて表現されています。綿毛の繊細さと立体感が伝わってくる素敵な絵になっています。

（遠藤）